

令和6年 6月21日
帯広開発建設部

札内川の礫河原再生に向けた取組

～札内川の河川水位が一時的に上昇します～

札内川ダムでは、洪水期に備えた貯水容量確保と札内川の^{れきがわら}礫河原再生を目的とした放流を、6月25日（火）午前6時から6月27日（木）にかけて行います。

放流期間中は、札内川の水位が上昇しますので、水辺には近づかないでください。

本放流は、洪水期に備えダムの容量を確保するための放流を活用して河道内の砂や礫^{かくらん}を攪乱し、ヤナギの河床への定着を抑制し札内川の礫河原再生を図ります。

記

- | | |
|----------------|---|
| 1 水位上昇する時期 | 令和6年6月25日（火）から令和6年6月27日（木） |
| 2 最大の水位上昇量 | 約1m |
| 3 水量の状況予測 | 6月25日午前6時にダムから水を流し始め徐々に水量を増やしていき、ダムから十勝川合流点までの区間では同日の昼から夕方にかけて、水位が上昇する見込みです。その後、徐々に水位は低下していきませんが、27日ごろまでは平常時より水位が高くなる見込みです。 |
| 4 札内川自然再生事業の取組 | 別紙参照 |
| 5 その他 | 気象状況等によりダムからの放流を中止する場合があります。中止する場合はホームページでお知らせします。 |

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部

・ダムの放流に関する問合せ

帯広河川事務所 所長 古賀 文雄（代表0155-25-1294）

札内川ダム管理支所 支所長 北畑 大輔（代表0155-69-4666）

・礫河原再生に関する問合せ

治水課 課長 尾崎 光政（代表0155-24-4105）

特定治水事業対策官 亀井 尚（同上）

帯広開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/ob/>





【別紙】 札内川自然再生（礫河原再生）の取組

札内川の礫（れき）河原の再生

- 十勝川水系札内川は、礫河原を必要とした多種多様な動植物が生育し、河川利用も盛んであり、流域の住民にとって愛着あるかけがえない水辺として親しまれている。
- 近年、河道内の樹林化が著しく、かつて河道内で広く見られた礫河原が急速に減少しており、氷河期の遺存種であるケショウヤナギの生育に適した環境の衰退が懸念されている。また、渡り鳥の繁殖地となっている十勝川水系の河川性鳥類の生息地としても礫河原は重要になっている。
- 河道整正（流路の一部掘削や樹木伐採）や既設ダムの放流を活用して河道内を攪乱させ、礫河原の再生を図り、ケショウヤナギ生育環境の保全に加え、札内川特有の河川環境・景観の保全を行うとともに水辺の活性化、地域の活性化に取り組んでいる。

目的



昭和53年撮影
KP35付近
広い礫河原が見られる札内川



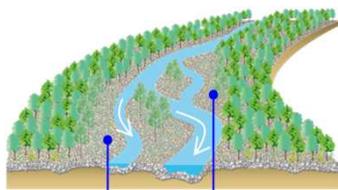
平成17年撮影
KP35付近
主流路沿いに礫河原が見られる札内川



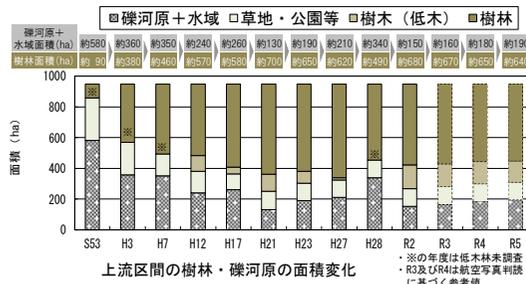
平成22年撮影
KP35付近
礫河原がわずかとなった札内川



平成28年撮影
KP35付近
一時的に礫河原が広がった札内川



・流路変動や河床攪乱による礫河原再生
・礫河原依存種の世代交代



これまでの取組



札内川ダム放流



増水時に流入し攪乱

本流

札内川ダム放流活用と効果最大化の取組



有識者による技術検討会



地域住民や高校生（授業の一環）によるモニタリング



流入部掘削を行った旧流路沿いで樹木流亡・礫河原が回復し、旧流路が維持

